

知事が県内各地に出掛け、三重を舞台に活躍している『若者』を紹介します。



三重の若者のチカラ

知事が行く! 突撃取材! 2 パート

三重でしか会えない
忍者の魅力を世界に伝えたい

伊賀忍者特殊軍団阿修羅 あしゅら

忍者 昌之助(浮田 昌義)さん(写真右)
知之助(浮田 知義)さん(写真左)

まさのすけ うきた まさよし
ともすけ うきた ともよし

伊賀忍者特殊軍団阿修羅とは?
世界中の観光客が訪れる伊賀流忍者博物館のステージや海外公演での実演ショーで、日本文化の発信などを行っている忍者集団です。



知事 : 忍者は世界中で注目を集めていますが、お二人は忍者という職業でよかったことは何でしょうか。

昌之助 : 海外公演に行ったときに、以前伊賀流忍者博物館で一緒に記念撮影した海外の方が、写真をスマートフォンの待ち受け画面にして「見に行ったよ」と言って会いに来てくれたことです。タイやイギリスのロンドンで来てくれる方がいて、それが嬉しく、やっけてよかったと感じます。

知事 : スマートフォンの待ち受けにするぐらい印象に残ったんですね。

昌之助 : そうですね。ありがたいです。

知之助 : 私は父から忍者の精神を学べたことが、一番よかったです。忍者は任務を必ず最後までやり遂げるという精神があります。それが現代社会の私の中でも生かされており、一度決めたことは最後まであきらめず、やり遂げるという忍者の精神は、若い世代にも伝えていきたいと考えています。

知事 : それは大事なことです。それでは次の質問ですが、お二人は海外公演によく行かれていますが、海外の方の反応はいかがですか。

昌之助 : 国によってはスーパーヒーローです。海外のホテルのロビーで忍者の衣装を着て、一緒に行った伊賀上野観光協会の皆さんを待っていたら、大勢の方に囲まれて、一步も動けない状況になったことがあります。また、フランスでは日本文化を尊重して下さる方が多く、ショーをしている最中は、静かすぎて楽しんでもらえているのかと心配になったんですが、ショーの終了後、大歓声をくれました。

知事 : それほど集中して見ていたということですね。それでは、知之助さんはいかがですか。



伊賀流忍者博物館で、二人が出演する忍者ショーを見学しました。5年前に見たときよりも、さらにレベルが上がっていました。

知之助：日本人も海外の方も、忍者に対するイメージは、ほとんど同じです。怖いというイメージが強いですね。黒づくめの衣装で暗闇に立ち、目だけがキラッと光っている。そして戦いが好きで、特に海外では忍者イコールすぐに人を殺めるというイメージがあるようです。でも忍者は、すぐに戦ったりはしません。伊賀流忍者博物館のステージや海外公演では、忍者の日常生活について話し、また、訪問先の文化を大切にすることで、皆さんが思っているイメージではないことを伝えたいと思っています。

知事：なるほど、確かにそうですね。ショーで披露される知之助さんのように楽しい大道芸をする忍者もいることを示してもらうと、忍者はむやみに人を殺めたりせず、普段は農業や大道芸をしながら、さまざまな情報を集め、必要なときだけ戦うということ、分かりやすく伝えてもらえていいですね。

知之助：海外では傘回しがものすごく好評なんです。戦っているイメージの忍者が傘回しをしていると意外性を感じるのか、忍者が芸をできると想像がつかないようで、海外の方に非常に受け入れられますね。

知事：素晴らしい。では次の質問です。お二人には忍者を通して世界へ三重や伊賀の魅力を発信してもらっていますが、海外の方に日本や三重県に来ていただくために何が大切だと思いますか。

昌之助：海外に行って忍者をPRすることも大事ですが、海外から伊賀に来ていただいた方が、「何なんだ、これは」とがっかりするような実演をしないことが大事だと思っています。お客様に「さすがだな！」と感じてもらい、喜びや感動を与えることで、お客様がリピーターになってどんどん来てもらえるようにしていくことが肝心だと思います。

知事：なるほど。そのためには、お二人のように高い技術を身につけたり、本物らしい道具を作ったり、公演のレベルを上げていかないといけないんですね。

知之助：私も兄と同じ意見です。それに海外からのお客様は日本の忍者を見たいと思っています。日本人にしかない魂があるはずなので、それを伝え続けていくことが、日本に来る観光客の増加につながるのではな



真剣を使った昌之助さんの迫力のパフォーマンス



知之助さんの人気の傘回し。
升だけでなく、500円玉も回していました。



昌之助さんが自作した武器を紹介してもらいました。
危険物を持ち込めない海外公演用に本物そっくりで作っています。

いかと思います。日本の三重県でしか会えない本物の忍者を世界中にPRしていくために、技術的にも人間的にも日々磨きをかけて成長していく必要があると感じています。

知事 : 伊賀に来ないと見られないものをつくっていくことが大切なんですね。

知之助 : 忍者は日本のあちこちに存在していますが、伊賀忍者はひと味もふた味もちがうことが世界中に広まれば、三重県に多くの観光客が集まり、もしかしたら日本の首都になるかもしれない。それぐらい夢を大きく持ってもいいんじゃないかと思います。

知事 : なるほど。それでは最後に、お二人の夢をお聞かせください。

昌之助 : 私は自分の父に憧れて、この道に進みました。忍者になることは非常に厳しく、精神的にも肉体的にも決して楽ではなかったですが、いまは素晴らしい仕事をさせていただいていると嬉しく思っています。そして、私たちだけでなくこれからも新人がどんどん増えることを願っています。また、父が築き上げた「伊賀忍者特殊軍団 阿修羅」を末永く残していくことが目標であり夢です。

知事 : 次世代への継承や人材育成を考えているんですね。

知之助 : つい最近、実家で父と「天皇皇后両陛下が開催する園遊会で、忍術を披露できればいいな」と話していました。日本国内での夢は、これですね。また、世界クラスの夢になると、ハリウッド映画出演や、ラスベガスでも公演してみたいですね。

知事 : いいですね。

知之助 : 伊賀忍者のことを、まだまだ知らない方がたくさんいます。私たちのように父から息子へ忍者の技を継承する者がいることを、世界中の皆さんにもっと知っていただくために、ラスベガスなどに進出していければと思います。

知事 : お二人は三重県の期待の星ですので、これからも頑張ってください。今日はありがとうございました。

二人 : ありがとうございました。



知之助さんが、火のついた鎌でお手玉をする神楽芸を見せてくれました。見ていてハラハラしましたが見事でした。



「忍者のホームタウンとして東京の次に三重を有名にしたい」と話す知之助さん。



お二人の夢についてインタビューしました。これからも世界中に忍者の魅力を伝えていってほしいですね。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570 三重県津市広明町13 ☎ 059-224-2788 FAX 059-224-2032 E-mail koho@pref.mie.jp